

1 題材について

対 象 学 年	小学校 第3学年
学 習 指 導 要 領	第3学年及び第4学年の内容 A 表現（2）及び鑑賞
題 材 名	おまつり おまつり 楽しいな（全9時間）
題 材 の 目 標	<p>祭りの体験をもとに、思い出や心に残った出来事を表すことに関心をもち、意欲的に絵に表そうとする。 【造形への関心・意欲・態度】</p> <p>祭りの中で心に残る出来事を見つめて、画面を構想する。 【発想や構想の能力】</p> <p>自分の思いが表れるように、人物の動きや顔の表情、色遣いを工夫してかく。 【創造的な技能】</p> <p>自分や友達作品を見ながら、用具の生かし方や願いを表すための工夫を見付け、それぞれのよさや美しさ、面白さを感じ取る。 【鑑賞の能力】</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化である祭りを題材に取り上げ、祭り文化を持つ地域に住む子どもたちの“祭りと自分”との主体的なかかわりをテーマに表現することをねらう。 ・ 本題材の基礎的・基本的な内容を具体化し、単位時間における指導内容を明確にする。 ・ 評価方法をもとに単位時間の児童の評価をする。 <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祭り体験を語らせたり、祭りを題材にした日記や作文、祭ばやしの音楽、祭りの写真など祭りの場面を想起させるようなものをできるかぎり準備してテーマに迫れるよう指導する。 ・ 人物の動き、顔の表情を大切にすることやかき方を指導する。 ・ 水彩絵の具など用具の生かし方を指導する。 ・ 鑑賞の時間には、形や色、線の勢いなど作品を見る時の造形的な視点も示していく。 ・ 自己評価の時間をつくり、自分の作品の振り返りや次の時間の課題をもてるようにする。
参 考 資 料	<p>鑑賞資料：参考作品</p> <p>指導資料：いろいろな顔の表情を示した資料 人物の動きを示す資料 水彩絵の具の基本的な使い方の資料</p>

2 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
内容のごまとのま評り価規準	<p>【表現】 表したいことを表すために、形や色、材料などを見ることに関心をもち、それらを生かし、組み合わせたりして、思いを表す体験を深めることに関心をもち、表すことを楽しもうとする。</p> <p>【鑑賞】 自分たちの作品や身近な造形品などの表し方や材料による感じの違い、よさや面白さなどに関心をもっている。</p>	<p>感じたこと、想像したことなどをもとに、よさや美しさなど感じたことなどから表したいことを発想し、それに合わせて、美しさや用途などを考え、計画を立てるなど構想をする。</p>	<p>表したいことに合わせて、手などを働かせ、形や色などの特徴やそれらの組み合わせの感じを生かし、前学年までに経験した材料や用具などの特性を生かして、表し方を工夫する。</p>	<p>表し方や材料の感じの違いが分かり、親しみのある美術作品やその製作の過程などのよさや面白さなどについて、話し合うなど関心をもって見る。</p>
題材の評価規準	<p>【表現】 心に残っている出来事を形や色に関心をもち、思いがよく表れるように取り組もうとする。</p> <p>【鑑賞】 自分や仲間や教師の作品をみることに関心をもち、美しさや面白さ、表し方の違いなどを見付けようとしていたり感じたことを話そうとしていたりする。</p>	<p>祭り体験の中から自分の一番表したい場面を見付け、その場の楽しさや美しさ、面白さが表れるよう、人物の動きや大きさ、画面配置、色などを考え、思いが伝わるように構想を立てる。</p>	<p>思いが表れるように顔の表情や体の動きを大切にしながら下絵をついたり、水彩絵の具や筆など用具のいろいろな扱いに注意して、自分だけの祭りの場面を表す。</p>	<p>仲間の作品のよさや美しさ、表し方や感じの違いなど自分と仲間の共通点や違いが分かり、自分の作品に生かしたりアドバイスしたりする。</p>
単位時間における評価規準	<p>高山祭りの体験を表すというテーマをもとに思いを膨らませながら表したい場面を決める。</p>	<p>祭りの体験をスケッチしながら思いを膨らませる。 表したい感じに近づけるために、顔の大きさや配置をどのようにしたらよいかを考え、画面上の構成を工夫する。</p>	<p>表したい気持ちに近い表情になるように目や口の動き、輪郭を工夫したり大きさで表現したりして気持ちが表れるような顔をつくる。 目や口の動き、顔の形など、顔の表情を工夫して表したい感じになるような下絵をかく。 絵の具道具を正しく使って人物や周りを彩色する。</p>	<p>仲間の作品に関心をもち、テーマや表し方の感じの違いに気付きながらよさや美しさを見付ける。</p>

3 指導と評価の計画（全 9 時間）

(1) 授業の流れ

- 第1次 表したい場面の決定 (1時間)
- 第2次 アイデアスケッチ (1時間)
- 第3次 構図 (2時間)
- 第4次 下絵 (2時間)
- 第5次 彩色 (2時間)
- 第6次 鑑賞 (1時間)

(2) 題材の指導計画

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	高山祭りの体験を表すというテーマをもとに、自分の祭り体験で心に残っていることを絵に表そうとする気持ちをもち、場面を決める。	高山祭りの体験を思い浮かべ、表したい場面を考える。 高山祭りを見た経験や、行列に参加した体験などを話す。 祭りを待ち遠しく思う気持ちやお祭りの日のわくわくした気持ちを語り合う。 自分の体験を思い浮かべ、一番伝えたい場面を簡単な絵や文章で表す。	<ア - > 高山祭りの体験を表すというテーマをもとに思いを膨らませながら表したい場面を決める。	プリントの記述 発表 スケッチ ・高山祭りについて思っていることや感じたこと、自分の体験などを進んで話したり書いたりしたか。 ・表したい場面をイメージしたか。	祭りに参加したことその他に采女の化粧をするところやお客さんを迎える準備をしているところなど、いろいろな場面があることを呼びかけ、表現の幅が広がるようにする。 祭りを題材にした作文や日記、写真を紹介して祭りを身近に感じさせる。
2	画面上に必ず自分を描き、細部にこだわらず思いつくものをいくつもかくことのでかきたいものの思いを膨らませる。	表したい場面をアイデアスケッチする。 画面上に必ず自分を描き、細部にこだわらず思いつくものをいくつもかいていく。 アイデアスケッチの中から表したいことがよく表れているものを一つ選ぶ。	<イ - > 祭りの体験をスケッチしながら思いを膨らませる。	アイデアスケッチ ・表したい場面をおおまかな形でとらえてスケッチしたか。	アイデアスケッチの例(教師の参考作品)を提示してイメージをもたせる。 祭り風景の写真を見せたりまつりばやし音を聞かせたりしてイメージをもたせる。
3	絵の中心になるものの大きさや配置を考え、思いが伝わる構図にする。	より思いが表れる絵にするためにどの部分を大事にしてかけばいいかを決める。 画面のどこにどんな大きさで入れるといいかを考える。 型紙を動かしながら大きさや配置の一番いい構図を決める。	<イー - > 表したい感じに近づけるために、顔の大きさや配置をどのようにしたらよいかを考え、画面上の構成を工夫する。	画面上の構図 観察 ・大きさや配置をあれこれ試しながら思いが伝わる構図を考えていたか。	友達同士でアドバイスし合う。 顔の大きさや傾きなどの資料から考えさせる。

4	<p>粘土を使って顔をつくり、目や口の動き、輪郭などを工夫したり大きさに表したりしながらより変化のある気持ちが表示されるような表情を見付けだす。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>表したい感じに近付くよう目の動きや口の様子輪郭を工夫して顔づくりをする。</p> </div> <p>目や口の動き、輪郭などをどのようにすると伝えたい場面の気持ちが表れる表情になるかを考え、表したい感じに近い表情をつくる。</p>	<p><ウー > 表したい気持ちに近い表情になるように目や口の動き、輪郭を工夫したり大きさに表現したりして気持ちが表れるような顔をつくる。</p>	<p>作品観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目や口の動き、輪郭などを工夫して表したい気持ちに近い表情がつけられたか。 	<p>いろいろな顔の表情の資料を提示する。</p> <p>鏡で表情をついたり友達同士で表情をつくって見せたりしながら表情の変化をつかませる。</p>
5 6	<p>人物の大きさや画面上の配置、顔の表情を大切にしたい思い切って下絵をかく。</p>	<p>目や口の動き、顔の形、手などをよく見て思いきって線をかき、表したい感じの下絵をつくろう。</p> <p>画面にどのような大きさで入れたらよいかを考え思い切ってかく。</p> <p>表したい表情になるように工夫してかく。</p>	<p><ウー > 目や口の動き、顔の形など、顔の表情を工夫して表したい感じになるような下絵をかく。</p>	<p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きさや、配置、表情などを大切にしたい思い切って下絵をかけたか。 	<p>顔の表情や画面配置、体の動きなど資料や教師示範で示す。</p>
7 8	<p>表したい場面を効果的に表すために道具を正しく使って人物や周りの彩色をする。</p>	<p>水彩絵の具を使って表したい場面を工夫して表す。</p> <p>水彩絵の具や筆などの用具を使って思いが表れるような彩色をする。</p>	<p><ウー > 絵の具道具を正しく使って人物や周りを彩色する。</p>	<p>作品観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を正しく使って彩色をしたか。 	<p>色づくりや筆遣いなど基本となる絵の具の使い方を資料や教師示範で示す。</p> <p>祭り(写真・音楽)コーナーや試しぬりができる用紙の準備など効果的な表現に結びつくような手だてをとる。</p> <p>一人一人の表現を認め励ます。</p>
9	<p>仲間の作品を鑑賞して、表現の面白さや多様性に気付き、造形的なよさを味わう。</p>	<p>自分の作品を発表したり仲間の作品を見たりする。</p> <p>自分の作品について話したり、仲間の作品のいいところを見つけて発表したりする。</p>	<p><エー > 仲間の作品に関心を持ち、テーマや表し方の感じの違いに気付きながらよさや美しさを見付ける。</p>	<p>プリント発表</p>	<p>色や形の美しさや人物の動きなど造形的なよさに着目させ一人一人の頑張りを見認める。</p>

5 評価の実際と個に応じた指導事例

本題材（あるいは本時）の評価と、個に応じた指導の事例を以下のようにまとめた。

「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例、及び「努力を要する」状況（C）と判断した児童がいる場合の指導の具体的な手だてを示している。

授業展開の中で、「学習活動における具体の評価規準」に照らして、個の学習状況を把握することに努める。その際、「努力を要する」状況と判断した児童（生徒）に対して、学習状況に応じた指導の手だてを講じて、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。それと合わせて、「十分満足できる」状況と判断できる児童の姿が実現されることをめざして、指導・援助に努めていく。

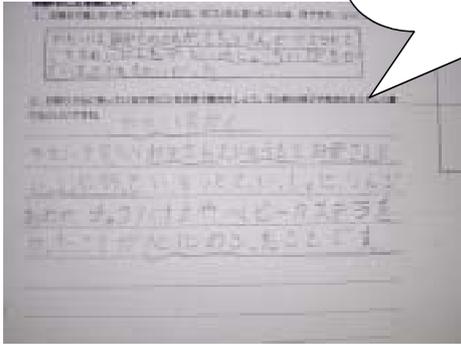
【造形への関心・意欲・態度】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p><アー> 高山祭りの体験を表すというテーマをもとに思いを膨らませながら表したい場面を決める。</p>	<p>頑張って鐘たたきをしたことや家を一軒一まわりながら笛ふきをしたことなど自分の祭り体験で心に残っていることをプリントにたくさん書き込み、イメージを膨らませていた。</p>	<p>お祭りへ出かけてはいるがどんな場面を表したらいいか、また、心に残っていることは何かが具体的にイメージできないでいたが、友達の発表を聞いたり、祭り風景の写真を見せたりすることでイメージをもち始め、家族でお祭りを見ている場面を表したいという気持ちももてた。</p>

【発想や構想の能力】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p><イー> 祭りの体験をスケッチしながら思いを膨らませる。</p>	<p>夜祭で屋台を見て、感激している場面をテーマに選び、スケッチをしていた。屋台の形や模様、見ている自分や家族の様子などをスケッチしながら、どんどんイメージを膨らませていた。</p>	<p>ゲームをしている場面の様子をテーマに選びスケッチをしたが人物の動きや形などが具体的にわからず困っていた。お祭りコーナーへ行き、お店の様子を見せたり友達にモデルになってもらって人物の動きを確認させたりした。その結果、具体的なイメージをもつことができ、人物の形などが詳しく表せた。</p>

やたいを見たりお父さんと妹とお母さんといっしょに行つて妹といっしょにりんごあめやチョコバナナやベビーカステラを買ったことが心に残ったことです。



【創造的な技能】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p><ウー> 目や口の動き、顔の形など、顔の表情を工夫して表したい感じになるような下絵をかく。</p>	<p>鐘たたきをしている真剣な表情をつくりたいという思いをもち、鏡で表情をつくって集中して取り組んでいた。自分の顔を見ながら、筆を使って慎重に目、鼻、口をかき進めた。口をぎゅっと結んで力を入れている様子やまっすぐ前を見ている視線などに力強さや真剣な感じがよく表れていた。</p>	<p>集中力が続かず、思い通りにならないと途中で活動をやめてしまいがちだったが友達にモデルになってもらいそれを見ながらかき進めた。教師が手、目、鼻、口などかく順番や場所を示し、励ましながら取り組ませた結果、最後までかきあげることができた。</p>

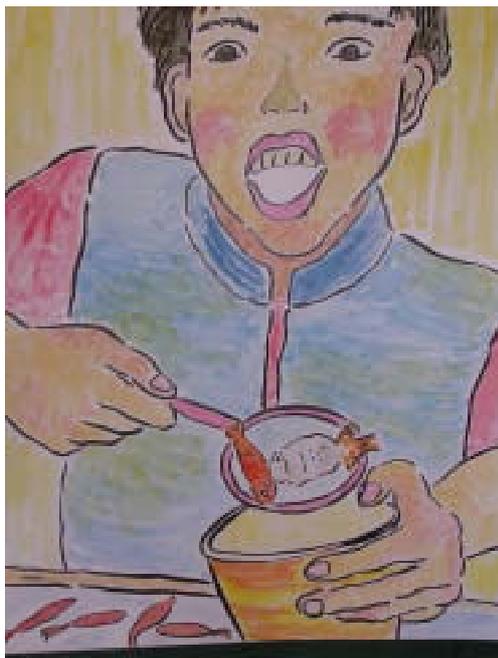


【鑑賞の能力】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現して いると判断した児童の具体的な状況例	「努を要する」状況（C）と 判断した児童への指導の手だて
<p><エー> 仲間の作品に関心 をもち、テーマや表 し方の感じの違いに 気付きながらよさや 美しさを見付ける。</p>	<p>仲間の作品を鑑賞して、墨で勢いよくか いていて元気のある絵になっている、とか、 色づくりをたくさんしてきれいな色に なっているなど、色や形という視点でよさ や美しさを見付けることができていた。</p>	<p>「～さんは、がんばってかいていてす ごいと思います。」など抽象的なとらえ や態度面でのよさ見付けにとどまっている 子に対しては、ものの形や多様な色、 また、色のきれいさなどからよいところ を見付けるように視点を与えた。</p>

参考資料

鑑賞資料（教師の参考作品）



指導資料



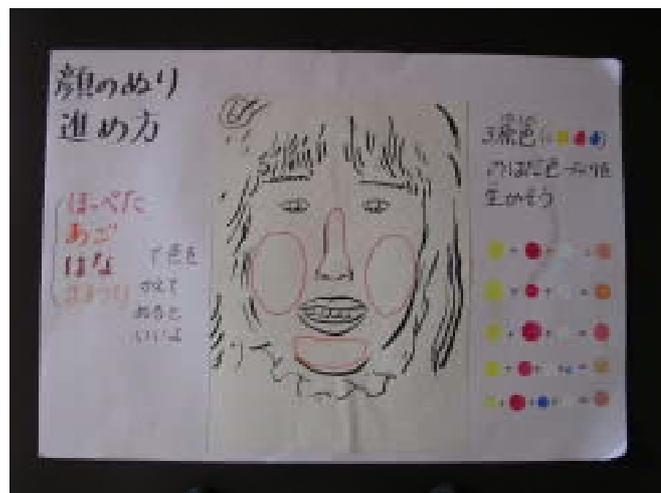
お祭り風景の写真資料



いろいろな顔の表情の資料



人物の動きの資料



水彩絵の具の基本的な使い方の資料